

分 か る と 快 感 ！ Z 会 ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

縄文時代に住まいを1か所に決めるようになったのはなぜ？

(名古屋大学 2012年 日本史)



日本列島で、人々が住まいを1か所に決めて生活するようになったのは縄文時代早期ころ(約1万2千年前～7千年前)、その傾向がさらに強まったのが縄文時代前期(約7千年前～5千5百年前)と考えられています。下の図は、約5千年前の関東平野の地図で、貝塚のあった場所と海岸線を示しています。この図を参考にしながら、なぜこの時期に、人々は1か所に住まいを決めるようになったのか、説明しなさい。



上の地図を見ると、5千年前には、関東地方の海岸線の形がまったく違っていることがわかりますね。地図にある「貝塚」とは、人々が捨てた貝殻が層をなして積もった遺跡のことです。貝殻が残されていることから、近くに海があり、人が暮らしていた証拠と考えられています。

昔は住まいが1か所ではなかった？

今回は、縄文時代に人々が住まいを1か所に決めて生活するようになったのはなぜか、という問題です。今のみなさんの暮らしを考えます



イラスト：瑞木匠

氷河期が終わり 食料を得やすく

と、1か所の家で生活することはごく普通のように思えます。しかし、縄文時代より前の時代には、日本列島の人々は次々と住まいを移して移動をしながら暮らしていました。人々の暮らし方はなぜ変わったのでしょうか。

食べ物の変化が暮らしを変化させた

縄文時代の少し前まで、日本列島は氷河期と呼ばれる寒冷な気候にありました。動植物の種類は少なく、寒冷な気候に強いマンモスなどの

大型の動物がいるだけでしたので、人々は食料を得るために、数少ない動物たちを追って移動しながら狩りをする生活を送っていました。

しかし、約1万年前、氷河期が終わり、温暖な気候が訪れました。大地には氷河の代わりに森林が発達し、多様な植物が育ちました。また、氷河が解けたことで魚介類が豊富に取れる海の面積が広がりました。寒冷な気候に強い動物たちは絶滅していききましたが、代わりに温暖な気候に適した中型・小型の動物たちが繁栄しました。気候と環境が変化したことにより、人々は移動生活を送らなくても、食料となる動植物をすぐ近くで得られるようになったのです。

食料が安定して得られるようになり、人々は1か所で生活し始めました。移動する必要がなくなったことで、人々はさまざまな道具を作るようになりました。その中で生まれたのが、縄目模様が特徴的な縄文土器で、この時代をあらわすものと考えられ、「縄文時代」の名前の由来となりました。 【Z会・河原井彩】

！今回の教訓

人々の生活のあり方は、食料の手に入れ方により、変化してきました。11月29日はいい肉(1129)の日。食べ物に感謝して、おいしいごはんを食べてくださいね。



河原井彩さん 2007年にZ会に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。